

授業科目	授業番号： 340		担当者	船津 潤	
	地方財政論		授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地方財政に関する基本的な概念や理論、日本の制度の内容、実態、特徴、課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】 地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係(政府間関係)の特徴を踏まえて、地方財政に関する基本的な概念や理論、そして日本の制度について講義します。ここでは、地方団体の自治体としての側面と国の地方行政機関としての側面の葛藤、地方財政が改革を求められるグローバル化などの背景、そして生活の基盤を支える地方財政の重要性を強く意識しながら授業を進めます。</p> <p>【到達目標】 日本の制度について理解を深め、説明できるようになる 地方財政について考察し、自分の見解を述べられるようになる 地域の課題を見出し、解決策を提案できるようになるための基礎力を身につける</p>				
学生の主体的・対話的な学び	<p>ほぼ毎回の授業で、こちらから質問を出して受講者の皆さんに発言してもらう機会を積極的に設けます。しかし、人前での発言が苦手な方は、配慮しますので、その旨、遠慮なく申し出てください。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし 適宜資料を配付</p> <p>(2) 総務省編『地方財政白書 各年版』日経印刷 金澤史男編著『現代の公共事業 国際経験と日本』日本経済評論社(2002年)</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2回 地方自治(1)：定義、地方政府の特徴、地方分権が求められる背景等 第 3回 地方自治(2)：グローバル化の影響、水道の民活等 第 4回 地方予算(1)：予算の役割、地方予算の特徴、中央と地方の相互依存関係等 第 5回 地方予算(2)：日本の制度の特徴、課題、日本の政府間関係の特徴の影響等 第 6回 地方の決算：定義、日本の制度と問題点、外部監査、市民オンブズマン等 第 7回 地方の経費：定義、主な分類とその見方、都道府県と市町村の違い等 第 8回 地方の事務：機関委任事務、自治事務、法定受託事務等 第 9回 国庫支出金(1)：定義、求められる役割、配慮すべき原則、三位一体の改革等 第 10回 国庫支出金(2)：実態、問題点等 第 11回 地方交付税(1)：財政調整制度とは、地方交付税の制度の内容等 第 12回 地方交付税(2)：機能、問題点等 第 13回 地方債：定義、適債事業、2006年度からの変化等 第 14回 住民自治：シアトル・メトロの事例(地方政府の創設)について 第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p>				
授業外学習 (予習・復習)	<p>授業後は復習し、不明確な点等は遠慮なく質問に来てください。また、講義の前後に総務省や自治体のサイト等で関連事項について調べ、検討すること、普段から地方財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入(地域との連携は殆どの大学にとって重要な課題です)にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことや議論したいことが出てきたら、遠慮なく声をかけてください。</p>				
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>				
実務経験について	なし				

なし